

学校法人天理大学
平成19年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数

【天理大学】

平成19年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	80	320	310
	人間関係学科	80	320	345
	計	160	640	655
文学部	国文学国語学科	40	160	177
	歴史文化学科	50	200	228
	計	90	360	405
国際文化学部	アジア学科	150	600	661
	ヨーロッパ・アメリカ学科	200	800	754
	日本学科	募集停止	0	0
	朝鮮学科	募集停止	0	2
	中国学科	募集停止	0	2
	タイ学科	募集停止	0	0
	インドネシア学科	募集停止	0	0
	英米学科	募集停止	0	3
	ドイツ学科	募集停止	0	2
	フランス学科	募集停止	0	2
	ロシア学科	募集停止	0	1
	イスパニア学科	募集停止	0	2
	ブラジル学科	募集停止	0	1
計	350	1400	1430	
体育学部	体育学科	170	680	850
総合計		770	3080	3340

【天理大学大学院】

平成19年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科		8	16	22

【天理高等学校】

平成19年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	收容定員	学生数
全日制課程（第一部）	普通科	※ 520	1560	1281
定時制課程（第二部）	普通科	108	432	399
	介護福祉科	36	144	128
	計	144	576	527
総 合 計		664	2136	1808

※募集人員は440

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

平成19年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	收容定員	学生数
天理中学校		200	600	591
天理小学校		※ 125	750	550
天理幼稚園		100	200	110

※募集人員は若干名

以上、大学から幼稚園までの学生数の総計： 6, 4 2 1名

(2) 役員・教職員の人数

平成20年3月31日現在

部 門	役 員	教 員		職 員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	16			62	24	102
天理大学		158	203	73	13	447
天理図書館				42	16	58
おやさと研究所		6		3	2	11
天理参考館				30	0	30
天理高等学校(第一部)		76	6	34	80	196
天理高等学校(第二部)		39	2	27	48	116
天理中学校		33	7	6	17	63
天理小学校		26		5	1	32
天理幼稚園		7		3	1	11
合 計	16	345	218	285	202	1066

2. 事業の概要

事業の概要

現在の日本はあらゆる面で大転換期にあります。少子化、規制緩和、国際化、情報化による大競争下に対処するために、従来の発想の枠にとらわれないリエンジニアリングが求められています。大学全入時代といわれる昨今、天理大学においても受験者数の減少などの影響が出てきている現実を直視し、建学の精神を再確認して、たゆみない改革を推し進めていきました。

本法人存立の意義・目的とは、^{おやがみでんりおうのみこと}親神天理王命の^{おぼしめし}思召である「陽気ぐらし世界」実現に寄与する人材の育成ということであります。その観点からまず教職員の信仰心の向上を目指すべく、全教職員を対象とした信条教育講習会を3回に分けて開催しました。その他、人権教育推進研修会、施設訪問研修、新任者研修会等を開催し、教職員の資質向上を図りました。

管理運営面では、財政の安定化に向けた改善の努力を続け、その一つとして早期退職者制度を実施しました。また、各種規程を整備するとともに、ホームページ作成システムを導入し、円滑な学校経営ができるよう努めました。

学校運営上の動きとしては、6月の学校教育法改正により学校評価が規定されたことを受け、7月に学校運営研修会を開催し、各学校の管理職およびミドルリーダーが学校評価の意義について研修する機会を設けました。

また、学校法人運営調査委員（文科省担当部局＝高等教育局私学部参事官付運営調査係）による実地調査が11月8日に実施され、本法人よりの管理運営・財務状況等の説明、担当事務官による財産目録等の調査・確認と施設・設備状況の視察がなされました。

天理大学においては、自己点検評価報告書を作成し、3月に大学基準協会に提出しました。自己点検および外部評価の結果を生かし、たゆみなき大学経営の改善を進めるべく、10月、理事長を座長とする大学改革実施委員会を立ち上げ、建学の精神の徹底、宗教学科および体育学部の入学定員の調整、国際文化学部の学科構成の検討を課題にして、審議を進めました。

天理高等学校および天理中学校においては、平成20年度に迎える創立100周年の記念事業である高校体育館の建築と中学校正門の建築へ向けての動きを進展し、そのための募金活動を積極的に進めてまいりました。

さらに、施設・設備面では、天理中学校においては、柔道場の畳交換工事、本校舎鋼板屋根塗装工事、体育館証明器具及び遮光カーテン改修工事を行いました。天理高等学校においては、第4別館屋上防水改修工事、PC教室の照明改修および光ケーブル敷設工事、南グラウンドの改修工事を行いました。天理大学関係では、柚之内キャンパスの駐輪場増設工事、体育学部テニスコート改修工事、天理図書館の冷却塔改修工事と南出入り口の施錠セキュリティー化工事を行いました。寮関係では、天理高等学校では、北寮のトイレ改修工事、陽心寮の舎監室改修工事、東寮の畳改修工事、白球寮の厨房工事を行いました。天理大学では、ラグビー寮厨房改修工事、柚之内ふるさと寮寮生室改修工事を施工したの

に加えて、野球寮を天理市櫛本町に新築しました。

スポーツ強化面では、重点スポーツのOBと管内学校長等によるスポーツ懇談会を理事長を座長として定例で開催し、管内のスポーツに対する取り組みを俯瞰的に検討すると共に、各学校の監督・コーチを対象にした指導者会議を随時開催して、縦横の連絡を密にすることにより、各レベルでの競技力の向上を目指しました。

学校経営を取り巻く環境の変化に対応すべく、様々な施策を講じてまいりましたが、以下平成19年度の各学校の主な事業を報告いたします。

【天理大学】

＜大学改革・中長期計画＞

平成19年10月に「教育改革推進委員会」を発展的に解消し、「大学改革実施委員会」を設置しました。さらに大学改革実施委員会のもとに企画推進室をおき、国際文化学部の改組を中心とした天理大学改革案をまとめました。改革案は、平成22年度実施を目的に現在検討が進められています。

また、本学は平成20年度に大学基準協会による認証評価を受けることになっており、そのための作業が自己点検評価委員会で精力的に進められ、3月には「自己点検評価報告書」をまとめ、大学基準協会へ申請しました。

FD委員会では、平成19年度より大学院のFDが義務化されたことに伴い、大学院のFDに関する研修会を開催しました。また、平成20年度からは大学もFDが義務化されることになっており公開授業を試験的に行うなど、FDの充実に向けた取り組みを積極的に進めました。

＜教育・研究＞

近年の犯罪や非行が増加傾向にある社会からのニーズに応えるべく、4月より「矯正・保護支援課程」を開設しました。本課程は、将来教誨師、保護司、民生・児童委員などとして矯正および更生保護支援活動を通して地域社会に貢献できる人材、また刑務官、法務教官などの専門職として社会で活躍できる人材育成を目的としています。

本年度は、「矯正・保護支援に関する科目」7科目中、「矯正概論」「更生保護概論」「犯罪心理学」「家族社会学」の4科目を開講しました。平成20年度は、残りの「矯正保護支援実践論」「犯罪被害者支援論」「矯正保護教育(施設参観を含む)」3科目を開講することになっています。

「天理大学韓国語科教員免許取得講座」は、平成18・19年度の2年間にわたる講座で、昨年度に引き続いて開講しました。

＜学生支援＞

信仰活動の支援、課外活動の支援、障害を持つ学生の支援をはじめ、天理大学奨学金ほか各種奨学金の取り扱い、下宿やアルバイトの紹介など、学生生活全般の支援を継続して行っています。

学生相談室では、学生の臨床心理相談を行っており、「学生相談室報告第8号－2006－」

を3月に刊行しました。

<国際交流>

平成18年度から留学生のためのチューター制度を設置し、初来日の留学生がスムーズに留学生活をスタートできる支援体制を整えました。6月24日には「国際交流の集い」を天理観光農園にて開催し、短期留学生、チューター、ホストファミリーら約70人が参加しました。この集いは、平成19年度から開始した「ホームステイ・ホームビジット」に関して、本学からホストファミリーへのお礼とお願い、ホストファミリーとお世話になる留学生との顔合わせ、また、チューターとして留学生の世話取りをしてくれた日本人学生の慰労などを目的に開催しました。

地域文化研究センターでは、「国際参加プロジェクト」として、7月21日から8月3日までインドネシア・北スマトラ州、メダンおよびニアス島、また8月18日から8月29日までフィリピン・サンタローサ市を訪問しました。インドネシアでは、スマトラ島沖地震・津波（2004年12月26日）とニアス島地震（2005年3月28日）の被災地である北スマトラ州で活動しました。州都メダンでは現地大学生との文化交流を行い、昨年小学校を建設したニアス島グヌンシトリでは、地震・津波の起こる仕組みや避難の仕方を劇で紹介する防災教育をインドネシア語で行いました。フィリピンでは、現地で行われていない音楽指導として、小学生にリコーダーを指導し、リコーダーを寄贈しました。マニラでは世界遺産での学習やホスピスでのボランティア活動に汗を流しました。帰国後は、リコーダーや文具、絵などを寄贈いただいた学校で報告会が開催されました。

<入試・広報>

オープンキャンパスを、7月（全学部）、8月（全学部）、9月（人間・文・国際文化学部）の3回実施しました。また、大学祭期間中には入試部による入試相談会を開催しました。その他、入試説明会、高校訪問等の入試広報活動をさらに強化しています。

しかし大学全入時代の到来に伴い、入学志願者の状況はますます厳しくなっており、国際文化学部の受験機会の拡大を図る上から、一般選抜前期の試験日を2日間から3日間に増やす等、緊急対策を講じるとともに、入学者選抜方法の抜本的な見直しにも着手しました。

また、広報活動に関してはより学生に身近な広報を目指し、学生通信員の活用や新聞形態の大学広報紙をA4冊子形態の広報誌「はばたき」に変更しました。誌面の中で、「天大スポーツ」のコーナーを扱い、スポーツ広報の充実を図りました。さらに、新聞やテレビ等マスメディアとの連携を強め、プレスリリースなどを通じ、学術情報や大学の取り組み等に関するさらなる広報活動の充実に取り組みました。

<就職支援>

新入生のうちから進路に対する意識を高められるよう、キャリア教育の充実に向けた取り組みを進めました。入学時に新入生全員に「自己発見レポート」（総合適性検査）を実施し自己の適性を把握させ、在学中の明確な目標を設定させる一助としています。また、実業界で活躍する卒業生を講師に迎える「キャリアデザイナー－人生と職業－」の科

目を通して、人生観・職業観を育成しています。さらに、2、3年次には「奈良県インターンシップ制度」に参加させ、大学在学中に就業体験することにより、職業に対する意識を高めています。

この他にも、1・2年次生向けの進路ガイダンスやセミナーを行い、3年次生に対しては、6月中旬から全12回のガイダンスを実施し、自己分析、企業研究、面接対策など就職活動に必要なノウハウをすべて習得できるよう支援しました。さらに、一人ひとりの学生を丁寧に支援する取り組みを進め、その一環として「キャリア支援ルーム」を開設し、CDAの資格を持つキャリアアドバイザーを学外から迎えて、個々の学生の要望に応じた就職相談を実施しました。また、就職支援・資格取得講座も充実しており、500名近い学生が受講しました。

<施設・設備>

I Tやマルチメディア活用の更なる充実に向けて、4号棟2階10教室のマルチメディア化を行いました。また、2号棟6教室・体育学部6号棟2教室・体育学部P C自習室の機器更新など改善を図りました。

図書室関係では、図書システムサーバーの老朽化や保守面の問題、および利用者サービスの向上を図る上から、新規図書システム導入のための専門委員会が中心となり、情報センターの協力を得ながら、平成20年度からの運用開始を目指して、移行のための諸準備を行いました。また並行して、1987年度以前のカード時代の図書を、O P A C検索の対象となるよう電子データ化の作業を進めるとともに、学内で発行された多くの学術・研究成果の電子データベース化にも着手しました。

<地域貢献>

教育研究の内容と成果を、「公開講座」をはじめとする様々な講座を通し、広く一般市民に公開しています。本年も天理市教育委員会や奈良新聞社等と共催で数多く開催しました。その他、学外からの要請に応じて、本学教員が講座、講演会、シンポジウムなど数多く参加しました。

天理市商工会から地域活性化の一環として、学生による天理本通商店街の空き店舗利用の協力要請があり、本学としても地域連携を推進する上で協力することになり、3月23日に仮オープンしました。平成20年4月12日には、本オープンし事業を進める予定になっています。

<その他>

ヒューマンライツ助成制度による各学部・学科、事務局各部、学生の自発的な人権啓発活動を継続して行いました。

本年度から「おつとめまなび」を始めました。おつとめまなびは、天理教教会本部の大祭に合わせて年3回行い、本年は4月11日(水)、10月10日(水)、1月9日(水)に開催しました。

【天理図書館】

貴重な図書を蒐集・整理し、資料保存とともに利用・公開にも寄与しています。

資料保存では重要文化財等の修復整備、利用では閲覧とともに、常設展示および展覧会を行いました。展覧会では教祖誕生祭記念展（4月14日から27日まで）、天理ギャラリー131回展「江戸時代の西洋学」（5月20日から6月17日まで）、開館77周年記念展「中国の絵入本」（10月19日から11月11日まで）を開催し、それに伴う図録の出版を行いました。

また館報「ビブリア127号」（5月刊）、「ビブリア128号」（10月刊）を出版しました。

閲覧・整理では多言語対応の図書館システムを導入し、利便性が向上しました。海外の古典籍整理担当者19名に対して、3年のステップアップ方式による「天理古典籍ワークショップ（1年目）」（6月18日～22日）を開催し、和（漢）古書資料の書誌情報を作成するための必要な知識・技術等とスキルの修得・涵養を行いました。

【おやさと研究所】

平成19年度は、創立50周年の記念として始めた公開教学講座を、逸話篇に学ぶシリーズで、「今求められる家族の絆」を統一テーマに、4月～6月、9月～11月の全6回、道友社ホールにて開催しました。毎回百名を超える受講者があり、その要旨は、『グローバル天理』『天理時報』『みちのとも』に掲載され、多くの関心を集めました。

6月15日には、研究所がオブザーバーとして参加している、「教団付置研究所懇話会」の「第二回宗教間対話研究部会」を大学の第1会議室にて開催しました。

10月27日には、立教170年記念シンポジウムとして、みかぐらうたの翻案に関する発表と実際と、「東アフリカ伝道の現況と展望」について、いずれもふるさと会館に於いて開催しました。なお、前者は、関係者のみの参加としました。

1月26、27日には、国々所々で現代の諸問題に対応できる人材養成を目的とした「教学と現代Ⅳ」を「布教伝統のダイナミクスー海外伝道と国内伝道の相互作用」をテーマに開催し、参加者から意義ある催しであるとの大方の賛同と、継続的な開催の要請がありました。

伝道史料室として継続的に行っている中国伝道の調査を踏まえ、第4回目の伝道フォーラムは、「戦前・戦中の中国伝道（三）青島・天津・北京・保定・杭州」をテーマとして、2月25日、大学の第1会議室を会場に開催しました。

また、天理スポーツギャラリー展の第7回目として「球技」を取り上げ、「球に魅せられ玉を求めて」と題して、ギャラリーおやさとにて展覧会を開催しました。

さらに、日本文化の空間学構築グループ（東京工業大学）との共催で、「国土再生の空間学」と題するシンポジウムを、ふるさと会館にて開催しました。

定例の研究報告会は、195回～204回の10回開催、宗教研究会は、第13回目を2006年より始めた「都市と旅ー巡礼・布教ー」として第5回目となる研究会を行いました。

出版物としては、定期の月刊誌「グローバル天理」を初め、年刊の「Tenri Journal of

Religion」、「おやさ」と研究所年報」、「伝道参考シリーズ」の17巻目となる「天理教のコスモロジーと現代—教祖百二十年祭記念公開教学講座」を、「グローバル新書」は、第7巻『宗教の詩学—テキストとしての「宗教」を読む』、第8巻『天理教人間学の地平』の2冊を刊行しました。なお、月刊の「グローバル天理」は、2001年1月に第1号を刊行して以来、2008年4月号で100号を数えるに至りました。

【天理参考館】

企画展として『遣隋使・遣唐使が出会った人びと』（4月～6月）、『キップの世界』（7月～8月）、『モチゴメの国ラオス』（10月～1月）、新春展として『古代天理の火葬墓たち』、およびスポット展『五月人形飾り』などを開催しました。ほかにトーク・サンコーカン（公開講演会）、ワークショップ、2回の天理ギャラリー展を開催しました。

また11月には天理大学との合同で、公開シンポジウム『東大寺山古墳』を開催し好評を得ました。

さらに初めての試みとして、企画展『モチゴメの国ラオス』を国立民族学博物館、総合地球環境学研究所との共催により開催し、シンポジウム、ワークショップの関連イベントも充実した内容で行うことができました。

考古美術・生活文化資料の収蔵品および研究用図書の実を図り、資料の調査研究、整理、修復・保存処理を行いました。

出版物としては、「天理参考館報」、「企画展示図録」を刊行しました。広報としては、ホームページ、情報誌、マスコミ、ポスター等のほか、「天理参考館ニュースレター」を発行するなど、館活動の情報の発信を継続して行い、広報活動の実を図りました。その他資料貸出、資料写真掲載の協力、博物館実習を実施しました。

来館者に喜んでいただけるよう、親切な接客、博物館情報の提供、館内の美化などの取り組み、また、館内各学校に当施設利用の促進の働きかけを継続して行いました。

平成22年に迎える創立80周年に向けて、記念事業を推進する委員会を立ち上げ、年史、特別展について検討しました。

【天理高等学校第一部（全日制）】

平成20年に創立百周年を迎えるにあたり、信条教育のより一層の実、発展を目指して、創設の元日を思い、拠って立つ所を互いに確認し合うために、全教職員が数度ねりあいを行い、これを具体的に行動に移せるよう、研修を重ねました。

また、授業の実や教員個々の能力の向上を図るため、奈良県立教育研究所や東京の私学教育研究所で行われる研修会に多数の教職員が参加をすると同時に、校内においても、外部から講師を招聘しての研修会を数回開催し、研究授業などと併せ研鑽の機会をもちました。

生徒への進路指導では、大学、短大、専門学校の先生方を校内に招いての進路説明会の開催、数回にわたる大学受験模試、公務員受験模試への参加、毎週の進学・基礎の講

習など、希望進路の実現のために力を尽くしました。進学指導においては、建学の精神を同じくする天理大学への進学指導や、塾との提携による特設の課外講習、夏季休業中の合宿勉強会などを行い、天理大学合格者 139 名をはじめ、国公立大学、私立大学に例年同様の合格者をだしました。

施設・設備面では、8月に創立百周年記念体育館の起工式を執行し、その後順調に建築が進んでいます。また、第1コンピュータ教室の設備の全面的な更新、改修を行い、情報教育、総合的学習の時間などの充実をはじめ、教育環境の整備に努めました。

野球・柔道・ラグビーのスポーツ寮の食事や環境の改善に取り組み、全てのスポーツ寮で管理栄養士によるスポーツ食の提供が可能になりました。さらに野球に関しては、白球寮の空調の改修、野球場建物への冷房設備設置なども行いました。

【天理高等学校第二部（定時制）】

「総合的な学習の時間」について、平成18年度で新教育課程の完成年度となり、平成19年度からさらに充実を図るという方向で検討を重ね、本年度から各学年1単位で実施しています。内容はキャリア教育を取り上げています。

生活指導については、天理警察署の協力を得て、全校行事として5月に交通安全・防犯教育を実施しました。7月には全女子生徒を対象に被害に遭わないための指導を行い、その後基本的な護身術の指導を実施しました。全国的に自転車事故が増大している状況下、本校でも乗用者が全生徒の約半数と多いため、特に注意を喚起し、マナーの徹底を図りました。また、制服を正しく着用することについて、昨年と同様に専門家によるセミナーを10月に実施しました。

進路指導については、本年度から進路指導室にパソコンを導入して、生徒が学校や就職先を検索するなどの活用ができるようになりました。

介護福祉科では、介護福祉士の国家試験の結果は第1次試験で合格率100%で、第2次試験では、合格率は91%でした。

職員月次祭まなびは年3回学期末に行っていますが、信条教育の充実の上から、より多くの職員が参拝できるようにと日時を考慮し呼びかけを行うことにより、以前にまして参拝する職員が多くなりました。

昨年に続き、オープンスクール（公開授業）を11月25日に実施しました。本年は605名の来校者がありました。本年は個別懇談の相談窓口を増やし、質問に十分に対応できるように配慮しました。当日来校し学校を見学した上で入学試験を受けた志願者が多数いました。

学校職員および各寮職員対象の生徒指導部研修会（年1回）や人権教育研修会、学校と学寮の合同研修会（年1回）、寮職員対象の学寮研修会（年3回）を昨年と同様に実施しました。各教員が校外における教科別の研修会に意欲的に参加しました。

【天理中学校】

教育環境の整備は昨年に引き続き進められ、本年は特に体育館の補修が中心となりました。まず、照明器具および感知器の全面的更新に始まり内壁の全面改修、さらにカーテンも全て新調しました。また、本校舎屋根の塗装の耐用年限が過ぎているところから、省エネ対策も兼ねて遮熱塗装工事を施しました。

創立百周年を翌年に控え、信条教育の一層の充実が求められる時旬にあたって、奇しくもその年度初めの月に巡ってきた第 500 回記念職員月次祭まなびを一つの節目として、それに向かって、歴史を学んだり、ねりあいやおてふりの練習等、「背中の教育」ができるように教員自らの心の成人を目指すべく努めました。また、鳴り物や礼拝場の補修もこの機会に併せて行うことができました。

人権教育については、本年度から「なかま学習」の呼称を改め「いちれつきょうだい学習」としました。

自己点検・評価の P.D.C.A サイクルについては、ここ 3、4 年は入学式をはじめとする学校行事毎に職員アンケートをとり続けてきています。改善点であると指摘される事柄が少なくなってきたことから、効果が徐々に表れてきていると思われま

【天理小学校】

全校朝会などあらゆる機会をとらえて、校訓の周知徹底を図りました。

火曜日から金曜日までの始業前 20 分を「天小タイム」と称して、計算練習・漢字・音読・暗唱などを中心にした基礎・基本の習得をさせ、ちょうど 100 回実施しました。本年度で 2 年目になりますが、前年度に続き「学力テスト」の偏差値が上昇しています。

特別活動については、オーケストラ部が西日本で最優秀賞を得ました。また、陸上クラブは、女子走り幅跳びの部で奈良県代表として全国大会に出場しました。水泳クラブは県内トップクラスを維持しております。

読書活動の推進については、図書室・学級文庫・校長室の 3 カ所に図書を置き、本に親しみやすい環境を整えてきました。読書感想文のコンクールでは、県の最優秀賞を得ました。

伝統ある「天小だより」に加えて、2 日に 1 度の割合で、学校通信「布留からの発信」を発行し、保護者との連携を図りました。本年度は 125 号発行し、保護者からの反応も良好のようです。学級通信も、前年度に比べて各学級とも発行回数が増え、内容にも多くの工夫が見られるようになりました。学年別にファイルして公開し、他の教員が参考にできるようにしています。

施設面では、コンピュータ教室を一新し、「総合的な学習の時間」等で児童が以前にも増して意欲的に取り組むことができました。教職員が扱うパソコンの情報管理・機密の保持を確実にすることが今後の課題です。

学校評価については、教職員対象に「学校運営自己評価」を、保護者対象に「学校運営に関するアンケート」を実施しました。保護者アンケートは、集計結果とともに分析・

考察を加え、保護者各位に文書で報告しました。これら自己評価の結果から課題を検討し、改善に向けて取り組んでいきます。

【天理幼稚園】

園児が様々な人との関わりをもつための取り組みのひとつとして、本年も毎月の誕生会に、いろいろな分野で活躍している人をゲストとして招き、交流を持つとともに様々な文化に触れました。また、体力づくりの上においては、園外保育の充実とともに、戸外で身体を動かして遊ぶ楽しさを味わえる活動や環境づくりの充実に努めました。

ティームティーチング体制を充実させ、全教師間で常に一人ひとりの育ちについて情報交換を行い、共通理解のもと、その子に応じた援助にあたるとともに、一人ひとりの違いに気づき、認めあい、共に助けあっている仲間関係を築いていけるよう努めました。

施設面では、本館から遊戯室への渡り廊下のガラス窓をアルミサッシ枠の窓にとりかえました。また、渡り廊下の一角に来客用の手洗い場を設置しました。

3. 財務の概要

(1) 平成19年度決算の概要

平成19年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。

○ 資金収支計算

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,499,548	3,502,470	△ 2,922
手数料収入	102,100	81,407	20,693
寄付金収入	3,400,500	3,416,733	△ 16,233
補助金収入	1,282,031	1,393,259	△ 111,228
資産運用収入	41,743	56,214	△ 14,471
資産売却収入	7,480	7,480	0
雑収入	289,571	335,837	△ 46,266
前受金収入	621,689	637,943	△ 16,254
その他の収入	293,800	313,255	△ 19,455
資金収入調整勘定	△ 889,645	△ 963,517	73,872
前年度繰越支払資金	5,601,083	5,812,883	△ 211,800
収入の部合計	14,249,900	14,593,964	△ 344,064

●支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費支出	6,545,792	6,545,166	626
教育研究経費支出	1,241,207	1,152,133	89,074
管理経費支出	338,077	343,176	△ 5,099
借入金等利息支出	10,618	10,618	0
借入金等返済支出	100,000	100,000	0
施設関係支出	995,000	882,432	112,568
設備関係支出	235,799	226,910	8,889
資産運用支出	7,265	105	7,160
その他の支出	1,159,200	1,263,672	△ 104,472
資金支出調整勘定	△ 1,041,300	△ 986,467	△ 54,833
次年度繰越支払資金	4,658,242	5,056,219	△ 397,977
支出の部合計	14,249,900	14,593,964	△ 344,064

収入の部では学生生徒等納付金収入がほぼ予算額通りの収入となりました。手数料収入は見込みを下回り、予算比では20.3%の減額となっています。寄付金収入は（宗）天理教より3.3億円、天理中学校・天理高等学校創立100周年記念事業寄付金に9,234万円、その他の寄付金が2,439万円ありました。補助金収入は私立大学経常費補助金が見込みより上回ったこと等から予算より増額となっています。雑収入は私立大学退職金財団等の交付金が増えたため収入超過となりました。当年度収入合計は前年度の88億5,898万円より約6,500万円減少して87億9,340万円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では145億9,396万円となりました。

支出の部では退職金支出の予算額に予備費5,200万円を充当しましたので、人件費支出がほぼ予算通りとなりました。早期退職者による停年退職金の増により退職金支出が当初予算額に比べ約6,200万円増加しました。施設設備の整備・改修としての主な支出は、1. 大学野球寮建築、2. 大学テニスコート改修、3. 大学研究棟周辺駐輪場構築、4. 大学ラグビー寮厨房改修、5. 大学マイクロバス購入、6. 大学袖之内ふるさと寮寮生室改修、7. 図書館重要文化財修理、8. 高校第2別館改造、9. 高校コンピュータ第1番教室更新、10. 高校南グラウンド整備、11. 高校北寮便所小便器取替、12. 高校白球寮厨房改修及び下水道設備構築、13. 中学校本校舎鋼板屋根塗装、14. 中学校体育館照明及び遮光カーテン更新、15. 小学校コンピュータ教室更新などです。また、高校新体育館建築工事のうち平成19年度分として6億5,740万円を執行しました。日本私立学校振興・共済事業団からの借入金にかかる返済支出は予算通り1億円、同利息分が1,062万円です。資金支出は合計で145億9,396万円となり、そのうち次年

度繰越支払資金は50億5622万円となりました。

○ 消費収支計算

(単位：千円)

●消費収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,499,548	3,502,470	△ 2,922
手数料	102,100	81,407	20,693
寄付金	3,409,850	3,425,909	△ 16,059
補助金	1,282,031	1,393,259	△ 111,228
資産運用収入	41,743	56,214	△ 14,471
雑収入	289,571	335,837	△ 46,266
帰属収入合計	8,624,843	8,795,096	△ 170,253
基本金組入額合計	△ 1,230,800	△ 1,126,131	△ 104,669
消費収入の部合計	7,394,043	7,668,965	△ 274,922

●消費支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費	6,551,792	6,664,826	△ 113,034
教育研究経費	1,980,307	1,891,658	88,649
管理経費	385,577	385,682	△ 105
借入金等利息	10,618	10,618	0
資産処分差額	81,460	37,399	44,061
消費支出の部合計	9,009,754	8,990,183	19,571

当年度消費支出超過額	1,615,711	1,321,218	
前年度繰越消費支出超過額	6,189,947	6,189,947	
翌年度繰越消費支出超過額	7,805,658	7,511,165	

《前記の資金収支と共通の科目があるので、消費収支特有のものについて説明します。》

消費収入の部では、帰属収入合計が予算比 1.97%増の87億9510万円（前年度比では0.78%〈6950万円〉の減）となりました。基本金組入額合計が、予算比 8.50%減の11億2613万円となり、消費収入合計は予算比 3.72%増の76億6897万円（前年度比では9.49%〈8億363万円〉の減）となりました。消費収入特有の現物寄付としては大学後援会等より図書を受贈があり、寄付金は34億2591万円（前年度比では0.44%〈1506万円〉の増）となりました。

消費支出の部では、人件費に退職給与引当金繰入額8億5780万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は1億1966万円となっています。教育研究経費には6億7436万円、管理経費には3306万円の減価償却費を含み、消費支出の部合計ではほぼ予算通りの89億9018万円（前年度比では1.44%〈1億2902万円〉の減）となりました。

当年度消費収支差額は13億2122万円の消費支出超過額（前年度は6億4661万円の消費支出超過額）となり、前年度繰越消費支出超過額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は75億1117万円となりました。

○ 貸借対照表

（単位：千円）

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	28,347,694	28,053,888	293,806
有形固定資産	26,367,656	26,066,475	301,181
その他の固定資産	1,980,038	1,987,413	△ 7,375
流動資産	5,366,169	6,129,653	△ 763,484
資産の部合計	33,713,863	34,183,541	△ 469,678

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	1,876,116	1,856,456	19,660
流動負債	1,764,048	2,058,299	△ 294,251
負債の部合計	3,640,164	3,914,755	△ 274,591

●基本金の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	36,796,535	35,670,500	1,126,035
第3号基本金	138,329	138,233	96
第4号基本金	650,000	650,000	0
基本金の部合計	37,584,864	36,458,733	1,126,131

●消費収支差額の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	△ 7,511,165	△ 6,189,947	△ 1,321,218
消費収支差額の部合計	△ 7,511,165	△ 6,189,947	△ 1,321,218
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	33,713,863	34,183,541	△ 469,678

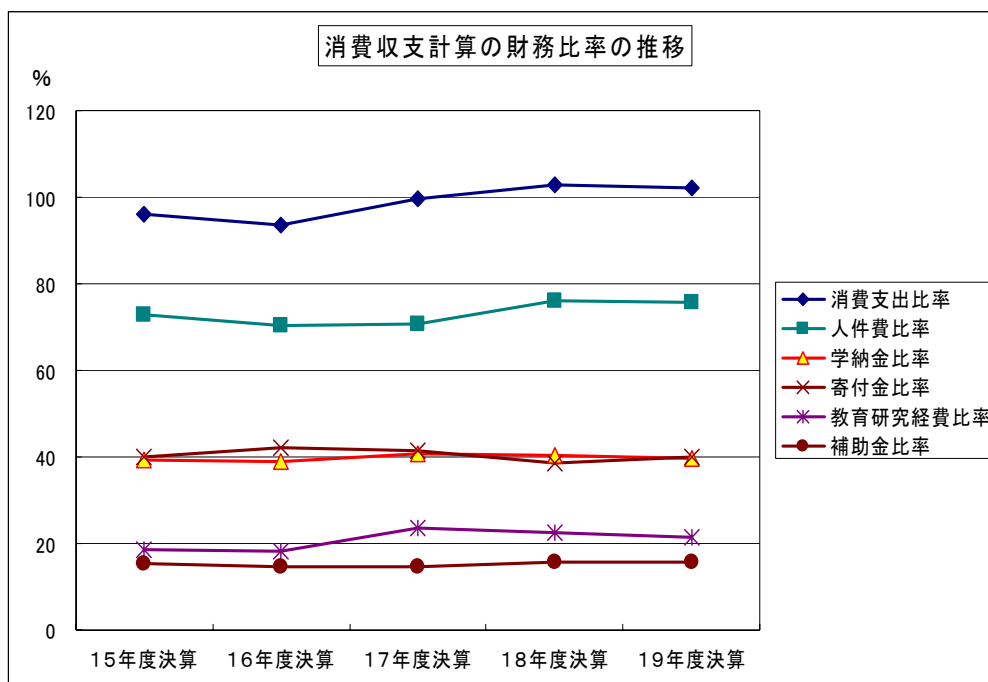
《貸借対照表は、平成20年3月31日現在の資産、負債、基本金等の状況を前年度末と対比させて表示しています。》

資産の部では有形固定資産が施設設備の充実及び受贈等による増加と資産の除却による減少及び減価償却を差し引いて、前年度末から3億118万円増、その他の固定資産は有価証券等の減により737万円減額しています。流動資産は現金預金の減少等により7億6348万円の減となり、資産の部合計では差引4億6968万円減の337億1386万円となりました。負債の部では借入金、未払金、前受金のそれぞれが減少し、退職給与引当金が増加したので差引2億7459万円減の36億4016万円となっています。基本金の部では11億2613万円の基本金組み入れを行いましたので、総額375億8486万円となりました。

消費収支差額の部合計は、消費収支計算の翌年度消費支出超過額と同額の75億1117万円の消費支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は300億7370万円となりました。

(2) 過去5年間の推移

財務状況について、過去5年間の財務比率によりその概要を報告します。



消費収支関係比率

(単位：%)

比率項目	15年度決算	16年度決算	17年度決算	18年度決算	19年度決算
消費支出比率	96.1	93.5	99.6	102.9	102.2
人件費比率	72.8	70.4	70.7	75.9	75.8
学納金比率	39.3	38.9	40.6	40.2	39.8
寄付金比率	39.9	42.2	41.4	38.5	40.0
教育研究経費比率	18.4	18.2	23.5	22.5	21.5
補助金比率	15.4	14.6	14.5	15.8	15.8

《上記比率は消費収支の各科目の帰属収入（法人の負債とならない収入）に対する割合です。》

16年度までの消費支出比率は現物寄付金等を含めた帰属収入の増により減少傾向でしたが、17年度より帰属収入の減等により上昇し、18年度では消費支出が帰属収入を2.9ポイント、19年度では2.2ポイント上回りました。人件費比率は17年度までは横ばい状態でしたが、18年度決算においては停年退職者による退職金の増加により、17年度以前に比べて約5ポイント上がり、75.8%となりました。学納金比率はほぼ横ばい状態で推移しています。寄付金比率は天理中学校・天理高等学校百周年記念事業の寄付募集により、前年度より1.5ポイント上昇しています。教育研究経費比率は17年度より補助活動事業に係る減価償却額の配分を見直したことから教育研究経費が増加し、過年度の比率より上がりました。19年度は金額が若干減少し前年度より1ポイント下げています。補助金比率は近年の下がり傾向から挽回し、19年度は18年度の補助金額をほぼ維持して、比率についても横ばいの15.8%となりました。